

少子化と家事・育児の男女間格差

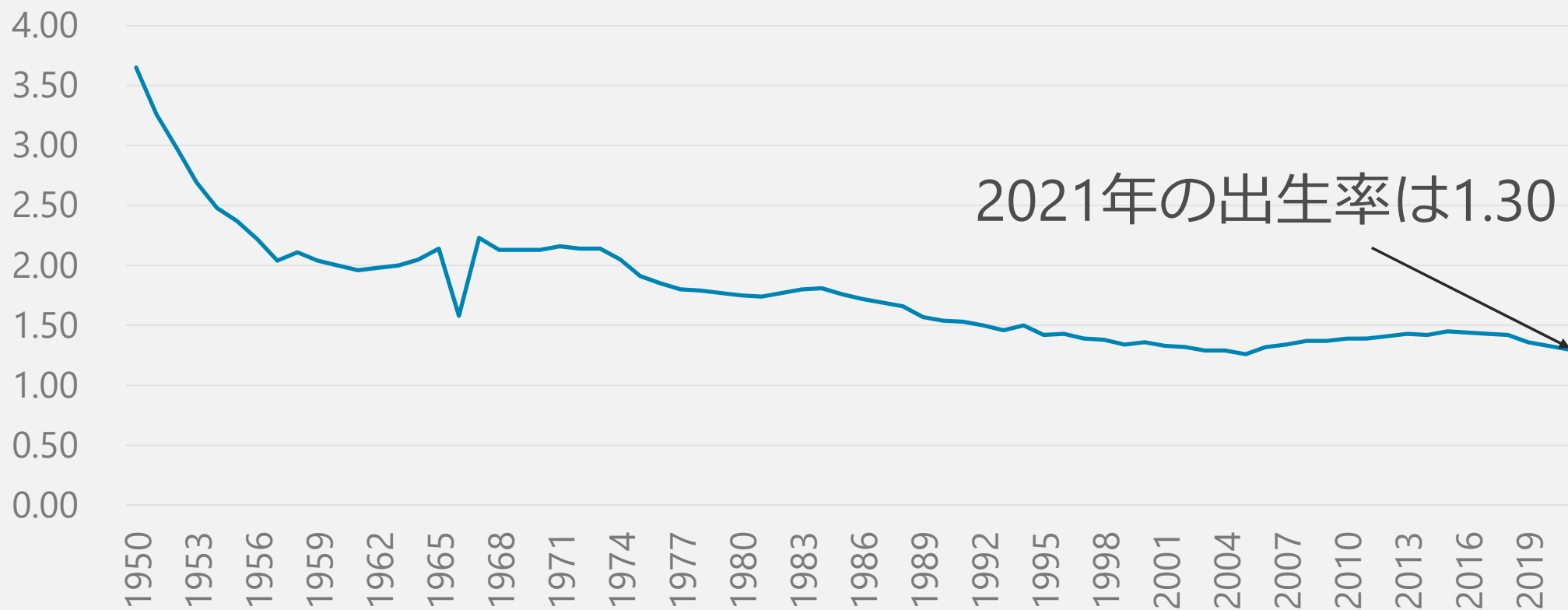
2022年10月4日
ESRI政策フォーラム

東京大学 経済学研究科

山口慎太郎



下がり続ける出生率

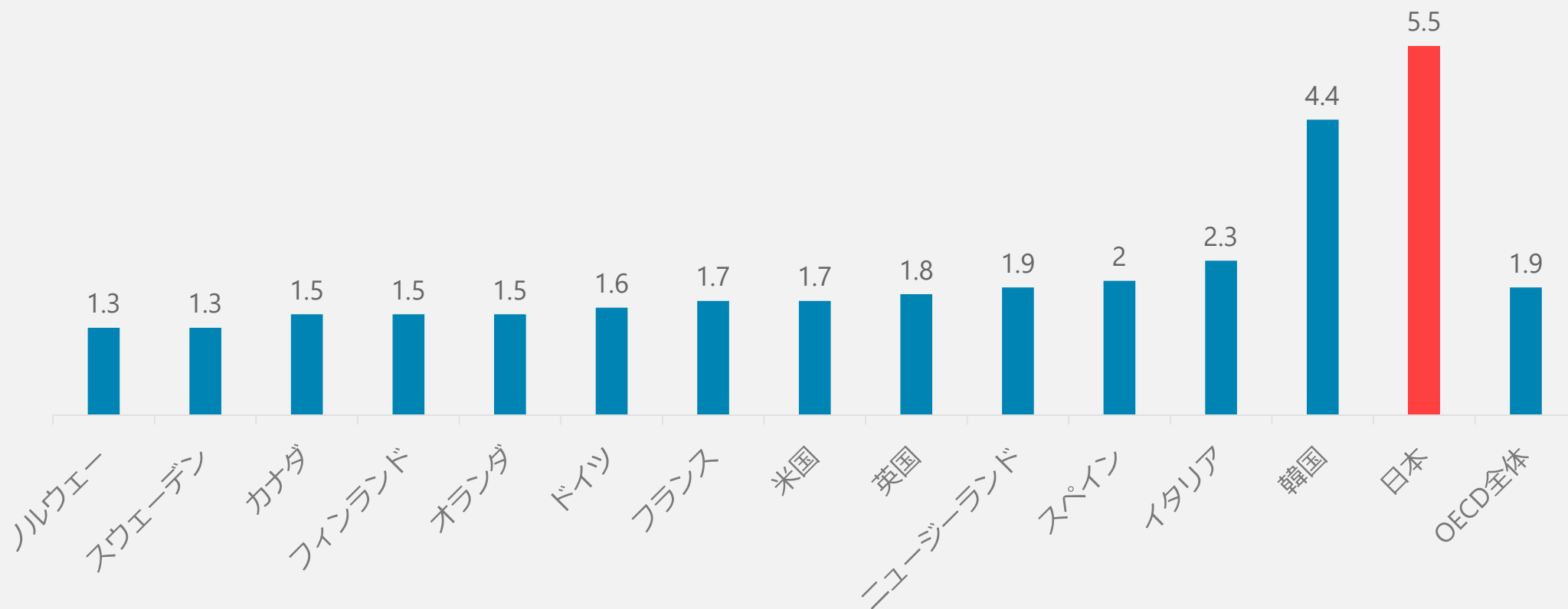


データ：人口動態統計



家事・育児時間の男女間格差

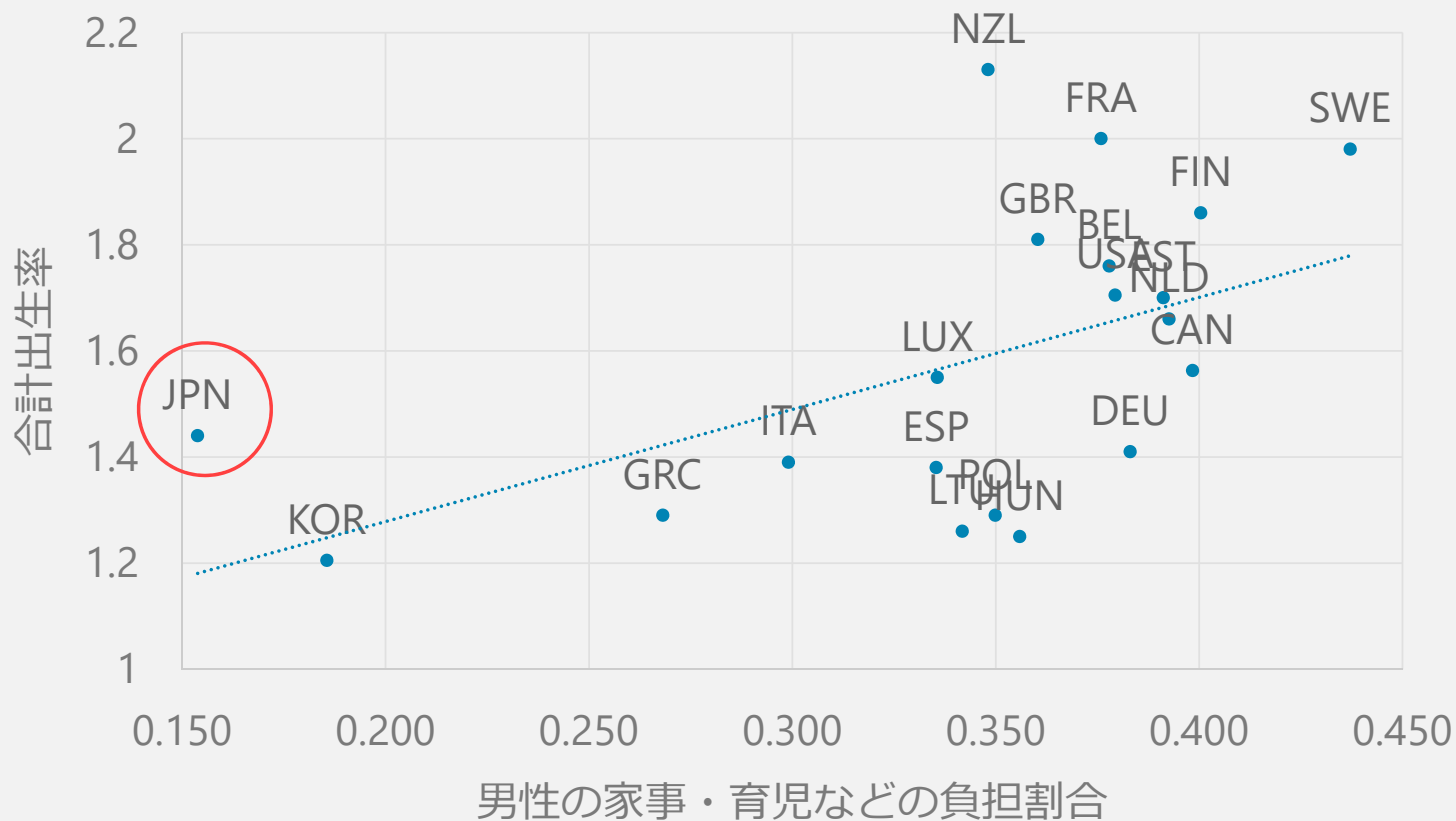
家事・育児時間の男女比（女性／男性）（倍）



山口慎太郎（東京大学）



男性の家事・育児負担と出生率 (2010-2019)



出所：OECD Gender Data Portal 2021、The World Bank Open Dataより筆者作成

注：男性の家事・育児などの負担割合は、無償労働時間の男性平均と女性平均の和に占める男性平均の割合と定義。調査年が国によって異なるが、無償労働時間と合計出生率の対象期間を国ごとに一致させている。高所得国のみを対象。

山口慎太郎 (東京大学)



なぜ男性の家事・育児が少子化解消に寄与するのか

- 夫婦ともに子どもを持ちたいと思っている場合、実際に3年以内に子どもが生まれている。
- 夫が望んでも、妻が子どもを持つことに賛成しないことが多い。
- 妻が賛成しない場合、夫が家事・育児を担っていないことが多い。

夫がより家事・育児を担うことで妻の負担を減らし、子どもを持つことに前向きになる。

以上、欧州19カ国調査 (Generations and Gender Program) より
参考：Doepke and Kindermann (2019)



どうすれば家事・育児の男女間格差は減らせるか

「男性育休」の推進

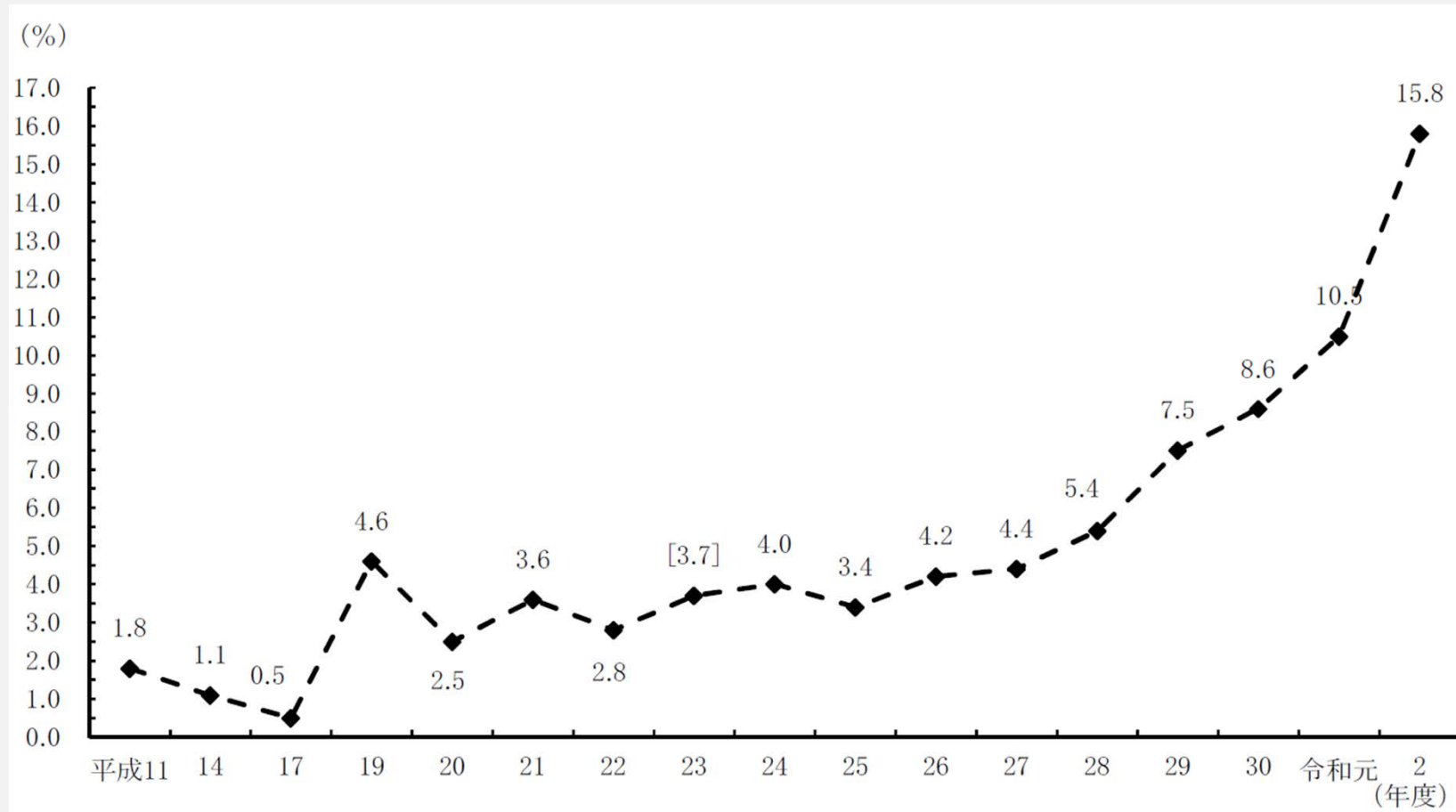
重要な出発点。人生を変える契機にも。

テレワークの推進

コロナ禍で明らかになったテレワークの効用



日本の男性育休取得率は増加傾向も低水準

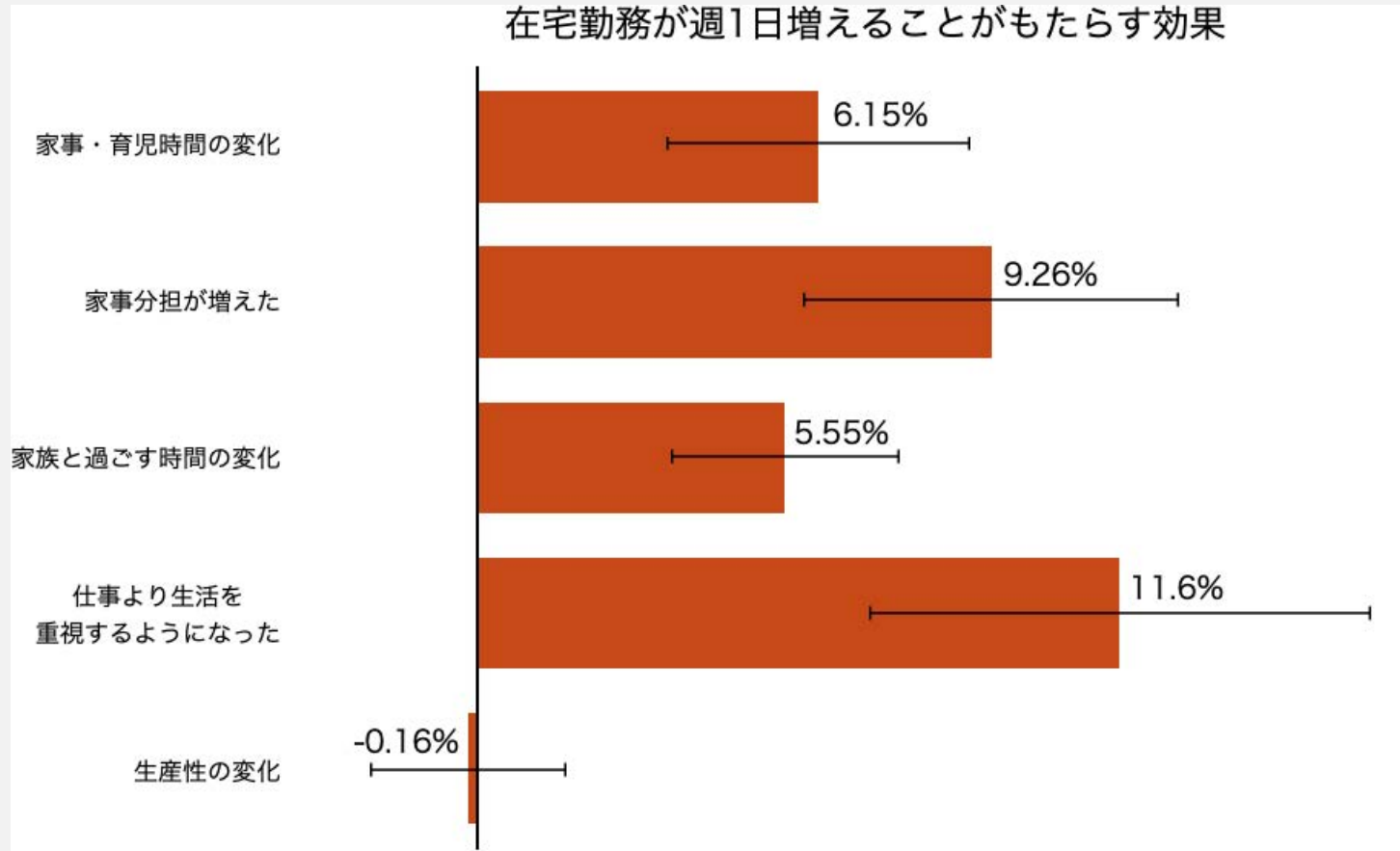


出所：厚生労働省 雇用均等基本調査

山口慎太郎（東京大学）



テレワークで男性の家事・育児が増える



(出所) Chihiro Inoue, Yusuke Ishihata, Shintaro Yamaguchi, Working from Home Leads to More Family-Oriented Men, University of Tokyo, CREPEDP-109, 2021.

山口慎太郎 (東京大学)